

外 国 語

『英語（リーディング）』

第1 高等学校教科担当教員の意見・評価

1 前 文

令和7年度共通テスト（以下「本テスト」という。）の「英語（リーディング）」の受験者は、本試験が453,668人（昨年度は449,328人）で、受験者全体の約98.3%（昨年度は約98.4%）に当たる。このことは、本テストが受験者及び学校関係者のみならず、多方面に与える影響が非常に大きいことを意味している。本試験の平均点は昨年度の51.54点から上がり、57.69点であった。

本テストの問題作成方針では、平成30年告示の学習指導要領を踏まえて、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解する力を「リーディング」形式の問題を通して測るとともに、それらの力を問うことを通して、コミュニケーションを支える基盤となる語彙や表現、文法等に関する知識や技能についても測り、総合的な英語力を評価することをねらいとしている。

これらのことを踏まえ、本試験の問題について、21ページに記載の8つの観点により、総合的に検討を行った。

2 内 容・範 囲

本テストは、受験者が高等学校での外国語の授業（「英語コミュニケーションⅠ」、「英語コミュニケーションⅡ」、「論理・表現Ⅰ」等）で学ぶ内容・範囲を網羅しており、「リーディング」形式を通して高等学校段階で身に付けた総合的な英語力を測るものとしておおむね適切であった。日常的な話題から科学的な話題まで幅広く取り上げられており、場面や状況の設定も受験者が想像しやすいよう工夫されていて、実際のコミュニケーションにおいて英語を運用する力を測ることができるように配慮されている。学習指導要領で求められる、「主体的・対話的で深い学び」を経験してきた受験者が、高等学校段階で学習した語彙や文法の正しい知識を基に、コミュニケーションの目的に応じて英文を読み、思考力・判断力・表現力等を発揮しながら概要や要点を捉えたり、情報を活用して推測したり再構築したりする内容となっている。

第1問 主に手順が述べられた資料の特徴を理解し、目的に応じて必要な情報を適切に読み取る力が問われている。

第2問 複数の意見がまとめられた資料を適切に読み取る力や、読み取った情報を基に推論する力、事実と意見を区別して読み取る力が問われている。

第3問 身近な内容の物語を読み、あらすじを正確に読み取る力や、登場人物の心情を適切に読み取る力が問われている。

第4問 作文の原稿とそれに対する教師のコメントを読み、結束性や一貫性を高めるよう推敲する力が問われている。

第5問 表を含むメールのやり取りを読み、要点を適切に読み取る力や、得られた情報を基に適切に推論する力、及び状況に適切に応じる力が問われている。

第6問 創造的な物語を読み、場面の前後関係や登場人物の特徴を正確に読み取る力、及び文章自

体の改善すべき点を発見する力が問われている。

第7問 科学的な文章を読み、情報を正確に読み取り、要点を適切にメモにまとめたり図表化したりする力が問われている。

第8問 対立点を含む複数の意見を読み、それらの共通点を正確に読み取る力や抽象化する力が問われている。また、図表を含む複数の資料から読み取った内容に基づき、自分の考えを作文の構想メモとしてまとめる力が問われている。

3 分量・程度

出題範囲としている科目の目標及び内容等に対応したものとなるよう、教科書で用いられる英文の分量・難易度に準じた問題文を扱っている。各大問においては様々な難易度の設問がバランス良く配置されている。設問数は昨年度より6つ減り、分量は約700語減少したが、それでも素早く正確に読み取り、迅速に情報を処理しつつ読む力が求められている。

第1問 約180語で3つの設問。パンフレットとして適切な分量である。飼育水槽の製作方法が伝わるように工夫された英文で読みやすい。難易度は第1問として適切である。問3では、正答である④の絵が should cover 50-70% を表しているか、受験者が判断に迷った可能性があり、また様々な情報を統合して考える必要もあり、受験者にとって難易度が高かった。

第2問 約270語で4つの設問。ブログとして情報が簡潔にまとめられており読みやすい。設問の難易度は全体としては標準的である。問2では解答するために本文中の表現をパラフレーズし、かつ読み取った情報を統合する必要があるため、やや難易度が高かった。

第3問 約340語で3つの設問。思い出を述べた物語で、英文の難易度や分量は適切である。出来事や心情を発生順に並べ替える問2は、選択肢の主語を the band leader と表現し本文中のどの人物かを特定させた上で、語彙や文法の正確な知識を基に注意深く読み取ることが必要であり、上位層から下位層までを識別する良問であった。

第4問 約300語で4つの設問。英文の難易度や分量は適切である。文と文のつながりや論理的な文章構成を踏まえながら解答する必要がある。新しい形式の出題であったが、適切に受験者の英語力を測ることができていたと思われる。

第5問 約670語で5つの設問。異なるタイプのテキストが3ページにわたり、設問も3ページにわたることから受験者は情報を整理しながら丁寧に読むことが求められた。問2は午前と午後の大テーマに沿った発表タイトルを選択肢からそれぞれ選ぶ問題で、注意深い読み取りが求められる。問4は座席配置を選択する問題だが、ディベート体験があれば配置が想像しやすいため、受験者には解きやすかったと思われる。

第6問 約690語で4つの設問。設問は主人公のキャリアの変遷や成長の過程、登場人物間の関係性を読み取る必要があるため受験者にとって理解しづらかったと思われ、大問別得点率が最も低かった。問4は英文を正確に読み取る力を測ることができる識別力の高い良問であった。

第7問 約700語で5つの設問。分量はやや多いが、情報がパラグラフごとに整理されて述べられている。英文の難易度は第7問として適切である。問3においては、誤答である⑤の意味が受験者にとって理解しづらく、難易度の高い設問となった。問5では誤答である②や③を選ぶ受験者が多かった。sleep-like のように自然な英語だが受験者にとっては必ずしもなじみのない表現が含まれ、難易度が高い問題となったと思われる。

第8問 約750語で5つの設問。分量は多いが、受験者が解きやすいように作文を書くステップごとにテキストと設問が配置されている。設問も作文を書くというタスクに沿った設問となっており、適切な設問、難易度であった。問5は設問のリード文が示す作文の方向性を理解することが求

められ、グラフが表す内容を英語で言語化して解答を選ぶ必要もある。また、各選択肢が3行にわたっており、難易度が高い設問となった。

4 表現・形式

学習指導要領に基づき、コミュニケーションを通して情報や考えなどの概要や要点をつかみ、話し手や聞き手の意図などを的確に理解する場面・状況設定が適切になされている。配点も適切に設定されている。また、英語表記にもイギリス英語を用いるなど、多様な種類の英文から出題があった。文章表現・用語も、学習指導要領に基づき場面ごとにおおむね適切に使用されている。また、図や表は、本文や資料の中でおおむね効果的に使用されていた。

第1問 留学生がホストファミリーのために、魚の適切な飼育のための情報が書かれたチラシを見付けたという場面設定である。問3で正解となるイラストは、本文の内容を正確に表すものとしては受験者には分かりにくかったと思われる。

第2問 未来の交通手段についてのレポートを作成するため、ブログを読むという場面設定である。「空飛ぶ乗り物」のイラストは本文の理解を効果的に補助するものである。centreなどイギリス英語の表記が使用されている。問3は、事実と意見の区別が必要であり、高等学校において、この点に関する指導が求められる。全体的にはレポートを書くためにブログを読み取り必要な情報を収集するという学習過程に沿ったもので適切な問題であった。

第3問 イギリスの高等学校に留学中に、クラスで発表するために見付けた英文という設定である。本文はナラティブの形で書かれている。practiseなどイギリス英語の表記が使用されている。同一人物を様々な表現で表し、正確な読み取りが求められる設問や、文章表現から登場人物の心情を推測する設問など、資料の性質に即した適切な設問で構成されていた。

第4問 教師からのフィードバックを受けて、作文を推敲するという設定である。ライティングを題材にすることで発信力を問う問題として適切であり、学習過程を意識した問題としても適切である。推敲のためのコメントは、実際の作文の推敲過程を考えると他の書き方も考えられるかもしれない。さらに、設問に加えないコメントがあっても良いだろう。問1で想定された修正が本当に望ましいものかどうかは検討の余地がある。

第5問 留学先で会議の企画をするために、担当教授にメールを送り、その返事を受け取ったという設定である。複数のテキストを読んで情報を整理・統合しつつメールの返信を考えるという問題設定は適切だが、教授からの返信メールの体裁が手紙のようになっており、メールの形式としては違和感を覚える。問2はテーマに合わせてプレゼンテーションのタイトルを選ぶ設問だが、教授からスピーカーの紹介とその内容が示され、そこからタイトルを推測するという場面設定は不自然に感じられる。問4は資料に基づかなくても断片的な情報から推測しやすく、もう一つ選択肢があっても良かっただろう。

第6問 友人の書いた物語を読んでフィードバックをするという場面設定である。場面転換を◆を用いて明示し受験者の理解を助けている。問1は、選択肢に書かれた情報が本文に明示されていない場合や、park rangerの意味を正確に捉えられていない場合など、複合的な要因から受験者には分かりづらかったようだ。

第7問 科学プロジェクトで発表を行うために、動物の睡眠に関する記事を読んで要点をまとめながら準備を行うという場面設定である。受験者が想像しやすいトピックであり、適切な問題内容であった。問5は内容として第7パラグラフのタイトルを考える問題であったが、パラフレーズされたキーワードが理解できるかが問われる適切な設問である。科学的な内容の設問であるので、文体に多様性を持たせ、アブストラクトを含めた科学論文形式にすることも考えられる。

第8問 宇宙開発についてウェブ上で5人の意見を読み、グラフのデータも使いながら自分の意見の要点をまとめて作文を書く準備をするという場面設定である。メリットやデメリットが様々な視点から論じられており、問題を多角的に捉えた上で自分の意見を述べるという実際の学習過程も踏まえている。問3は、5人それぞれの主張を理解した上で更に議論の共通点を導き出す設問である。具体的な記述から抽象化ができるかどうか問われており、思考力を測る適切な問題である。

5 ま と め（総括的な評価）

出題の全体を見て特筆すべきは、昨年度の本報告書で指摘のあった分量に関して大幅な改善が見られたことである。そのことにより、受験者が十分に考えて設問に答えることができるようになったと思われる。また、大学教育の基礎力となる知識・技能や思考力・判断力・表現力等を測るべく出題に更なる工夫を加えた試みも評価すべきであろう。

設問の設計については、全体を通じて問題作成方針に則しており、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解する力を「リーディング」形式の問題を通して測るとともに、それらの力を問うことを通して、コミュニケーションを支える基盤となる語彙や表現、文法等に関する知識や技能についても測り、総合的な英語力を評価するテストとして適切であった。

題材については、日常的な題材から科学的な題材、あるいは論争のある社会的な題材まで、幅広く取り上げられている。テキストの形式も、パンフレットやブログ、メール、記事など多岐にわたっており、様々な場面での英語力を測る工夫がなされている。また、タイプの違う物語文が2つ出題されるなど、いわゆる実用的文章に偏らない配慮がなされている。場面に応じてイギリス英語の表記が用いられるなど英語の多様性に対する配慮もある。さらに、作文や物語の未完成原稿を題材としたのは注目すべき試みである。

出題の内容や形式については、目的に応じた情報の読み取りや概要・要点の把握、事実と意見の区別、文章と図表との複合的読み取りといった従来型のものに加え、教師からのコメントに応じて作文を改稿したり複数の情報源を基に自分の考えをまとめたりする設定の出題があり、総合的な英語力を評価するという視点からの工夫が見られた。

大問ごとに実際のコミュニケーションを想定した目的や場面、状況が設定されるとともに、題材や設問は、高等学校における「主体的・対話的で深い学び」を志向した授業における学習過程に配慮されており、授業改善に向けたメッセージ性も感じられる。なお、「読むこと」と「書くこと」の技能統合を意識した出題では、高等学校教育への波及効果に十分な配慮を求めたい。問題作成の必要性を考慮しても、余りに不備の多い英語を題材とすることや不適切な改稿を強いるような出題は、問題作成方針にある「メッセージ性」が負の方向に働くからである。

体裁については、全体的に受験者が取り組みやすいレイアウトとなるように配慮がなされている。ただし、一部の設問において、資料に添えられた挿絵や選択肢の図が受験者に不要な思考を要求した可能性がある。これらの視覚情報については、必要にして十分かつ適切なものを慎重に配置する必要がある。

全体としては、本年度の出題は上述の通りおおむね適切であったと言える。来年度以降も、更なる改善を志向しつつ、引き続き安定して適切な出題がなされることを願いたい。